

事業成果報告書

〔取組Ⅰ〕 都道府県教育委員会による小中一貫教育推進に関する取組

1. 都道府県教育委員会名 : 福岡県教育委員会
2. 取組の名称 : 平成28年度福岡県小中一貫教育調査研究事業

3. 事業の実績

(1) 事業のねらい

本県の市町村における小中一貫教育実施に係る取組を支援する。

(2) 事業の実施状況

福岡県小中一貫教育推進の手引プロット（案）及び福岡県小中一貫教育等についての実態調査（案）について協議するとともに、協力町である篠栗町を指定し、篠栗町教育委員会並びにモデル校である篠栗北中学校及び北勢門小学校を支援し、篠栗町の取組の成果と課題及び先進的取組事例の収集・分析等の調査研究を行った。

(3) 事業の成果

- 福岡県小中一貫教育推進の手引（案）の作成
- 福岡県小中一貫教育等についての実態調査（案）の作成
- 先進的取組事例の収集

(4) 今後の取組予定

- 福岡県小中一貫教育推進の手引の作成
 - ・福岡県小中一貫教育推進協議会において協議
- 福岡県小中一貫教育等についての実態調査の実施
 - ・福岡県小中一貫教育推進協議会において協議
- 先進的取組事例の収集
 - ・協力町への情報提供及び福岡県小中一貫教育教育推進の手引への反映

4. 取組Ⅰの実績

(1) 取組のねらい

文部科学省が定める小中一貫教育推進事業委託要項に基づき、小中一貫教育実施に係る効果的な取組に関する調査研究を行い、県内の市町村における小中一貫教育の推進に資する効果的な取組の普及を図る。

(2) 取組Ⅰの実施状況（平成28年度）

10月	○小中一貫教育全国サミット参加
11月	○第1回福岡県小中一貫教育推進協議会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・【説明】福岡県小中一貫教育調査研究事業実施要綱 ・【説明】福岡県小中一貫教育推進協議会設置要項 ・【協議】福岡県小中一貫教育推進の手引プロット（案）
12月	

1月	○先進地視察1（山口県教育委員会）
2月	○先進地視察2（埼玉県教育委員会及び入間市教育委員会） ○第2回福岡県小中一貫教育推進協議会の開催 ・【事業報告】生涯学習社会の基礎を培う教育活動の創造（篠栗町教育委員会） ・【協議】福岡県小中一貫教育等についての実態調査（案）
3月	○他県視察報告会における報告（県内指導主事等対象） ・福岡県小中一貫教育調査研究事業に係る視察報告

(3) 取組の成果

<p>○福岡県小中一貫教育推進の手引プロット（案）について協議 ○福岡県小中一貫教育等についての実態調査（案）について協議 ○先進的取組事例（山口県教育委員会、埼玉県教育委員会及び入間市教育委員会）の収集</p> <p>【モデル校（篠栗町立北勢門小学校及び篠栗北中学校）における成果指標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用できる児童生徒の割合（92%） ・「問題解決・発見・創造力」等を身につけた児童生徒の割合（問題解決力72%、論理的説明等：62%、客観的認識等：75%） ・「将来目標」「自尊意識」の質問項目の肯定的回答の割合（H27:63%→将来目標：75%、自己肯定感：69%、自己有用感：51%） ・不登校児童生徒出現率（H27:1.6%→1.5%、達成状況はH29に検証） ・「郷土愛」の質問項目の肯定的回答の割合（H27:33.2%→70%） ・「社会貢献意欲」の質問項目の肯定的回答の割合（H27:60.8%→51%） ・「達成感」の質問項目の肯定的回答の割合（H27:79.0%→63%） ・保護者等を対象にした取組への肯定的回答の割合（H28.9に調査→積極的：52%、地域貢献：72%、取組肯定：72%）

(4) 今後の取組予定

<p><平成29年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ○福岡県小中一貫教育等についての実態調査実施（5月） ○平成29年度第1回福岡県小中一貫教育事業推進協議会（6月） <ul style="list-style-type: none"> ・【説明】福岡県小中一貫教育等についての実態調査結果 ・【協議】福岡県小中一貫教育推進の手引プロット（案） ○協力市町村教育委員会及びモデル校訪問指導（7月～12月） ○平成29年度第2回福岡県小中一貫教育事業推進協議会（2月） <ul style="list-style-type: none"> ・【事業報告】生涯学習社会の基礎を培う教育活動の創造（篠栗町教育委員会） ・【協議】福岡県小中一貫教育推進の手引プロット（案） ○小中一貫教育全国サミット参加 ○先進地視察 <p><平成30年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成30年度第1回福岡県小中一貫教育事業推進協議会（6月） <ul style="list-style-type: none"> ・【協議】福岡県小中一貫教育推進の手引（案） ○協力市町村教育委員会及びモデル校訪問指導（7月～12月） ○平成30年度第2回福岡県小中一貫教育事業推進協議会（2月） <ul style="list-style-type: none"> ・【事業報告】生涯学習社会の基礎を培う教育活動の創造（篠栗町教育委員会） ・【協議】福岡県小中一貫教育推進の手引プロット（案） ○小中一貫教育全国サミット参加 ○協力町による実践報告会の実施
--

5. [取組Ⅱ]を実施した協力市町村教育委員会等

通し番号	教育委員会等の名称
Ⅱ-1	篠栗町教育委員会

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号	Ⅱ-1
------	-----

1. 市町村教育委員会等の名称 : 篠栗町教育委員会

{

住所

:

福岡県糟屋郡篠栗町大字篠栗

4855番地5

}

代表者職・氏名

:

教育長 西 邦彰

2. 取組の名称 : 生涯学習社会の基礎を培う教育活動の創造

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

【取組1のねらい】	教科横断的小中一貫教科カリキュラムを編成するために、今後の篠栗町の小中学校において、重点的に育成すべき資質・能力を明確にし、発達段階に応じた目標（児童生徒像）を究明する。
【取組2のねらい】	鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れながら、「自己実現力」「人間関係形成力」「社会参画力」の3つの能力を11年間で系統的に育成するために、既存の体験活動、学校行事の活動内容と指導方法を再構築し、「篠栗町志教育カリキュラム」を編成する。
【取組3のねらい】	小中一貫教育モデル校における、小中指導の共通基盤を構築するために、生徒指導の三機能を生かした指導を研究、実践する。
【取組4のねらい】	小中学校の指導における、学校・家庭・地域の協働体制を構築するために、学校、保護者、地域、行政の代表者、学識経験者による小中一貫教育推進協議会を組織し、既存の保護者・地域団体の中に小中一貫教育運営組織を設置する。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成28年度）

4月	
5月	5/2 篠栗町小中一貫教育推進委員会事務局及び教務担当者部会設立（篠栗町役場）
6月	6/2 福岡県小中一貫教育推進協議会事務局準備会議（福岡県庁） 6/7 篠栗北小中一貫教育推進委員会運営委員会（篠栗北中学校） ・思考力育成教科カリキュラム、生徒指導の三機能をいかした授業づくりについての協議 6/20 第1回篠栗北小中一貫校区小中合同研修会（篠栗北中学校） ・公開授業（生徒指導の三機能をいかした授業づくり）、一貫した指導についての協議会、小中一貫教育推進事業についての説明
7月	7/21 運営委員会（篠栗町役場）
8月	8/5 第2回篠栗北小中一貫校区小中合同研修会（北勢門小学校） 8/17 関連予算執行準備、町補正予算案編成会議（篠栗町役場） 8/23 篠栗町小中一貫教育推進事業説明会・研修会（教職員対象 クリエイト篠栗）
9月	9/29 運営委員会（篠栗町役場） 9/30 第1回篠栗町小中一貫教育推進委員会（篠栗北中学校 ※ 資料1）篠栗町小中一貫教育推進

10月	10/14 ICT活用授業づくり研修会（篠栗北中学校） 10/17 第3回篠栗北小中一貫校区小中合同研修会（北勢門小学校） ・公開授業（思考ツールを活用した授業づくり）、一貫した指導についての協議会 10/21・22 小中一貫教育全国サミット参加（武蔵村山市 ※） ・教育委員会指導主事1名、北勢門小学校主幹教諭1名、合計2名参加 10/25 運営委員会（篠栗町役場）
11月	11/7 第2回篠栗町小中一貫教育推進委員会（篠栗北中学校 ※ 資料1） ・志教育小中一貫カリキュラム編成・小中一貫教育教科カリキュラム編成についての説明 11/11 小中一貫教育先進地域視察（東峰学園研究発表会参加 東峰村） ・教育委員会指導主事1名、篠栗北中学校教諭1名、合計2名参加 11/17 運営委員会（北勢門小学校） 11/21 第1回福岡県小中一貫教育推進協議会（吉塚合同庁舎）
12月	12/26 第3回篠栗町小中一貫教育推進委員会（篠栗北中学校 ※ 資料1） ・会議用タブレット導入（i-pad 8台 ※）
1月	1/5 志教育カリキュラム編成作業部会（篠栗町役場） 1/18 小中一貫教育先進地視察（呉市教育委員会 阿賀小学校 ※） ・教育委員会指導主事1名、小中学校主幹教諭・教諭5名、合計6名参加 1/11～1/18 小中一貫教育児童生徒アンケート・保護者アンケート実施（※ 資料6） 1/19 篠栗小学校小中一貫教育説明会（保護者・地域代表者対象 篠栗小学校） 1/21 北勢門小学校・篠栗北中学校小中一貫教育説明会（保護者・地域対象 篠栗北中学校） 1/30 運営委員会 1/31 第4回篠栗町小中一貫教育推進委員会（篠栗北中学校 ※ 資料1） 第1回篠栗町小中一貫教育推進協議会（篠栗北中学校 ※ 資料1） 1/31 志教育カリキュラム（小中一貫コア・カリキュラム）教育委員会集約
2月	2/13 第2回福岡県小中一貫教育推進協議会（吉塚合同庁舎） 2/17 篠栗町教育関係者懇談会（サンヒルズホテル） 2/20 運営委員会
3月	・H28年度取組のデータ、資料の整理 ・小中一貫教育推進事業の町HPアップ 3/24 北勢門小学校・篠栗北中学校小中一貫教科カリキュラム教育委員会集約

(3) 取組の成果 ※検証データは一貫教育の最終学年にあたる9年生のデータに基づいている。

【取組1の成果】

- 平成28年度改訂予定の学習指導要領の方向性、及び、篠栗町の児童生徒の実態に基づき、小中学校において重点的に育成すべき資質・能力を発達段階に応じて明確にした「篠栗町小中一貫教育カリキュラム社会的自立の基盤となる資質・能力の評価規準」を作成した。（資料6）
- この規準に基づき、篠栗北小中一貫校区では3月24日までに、資質・能力を重点的に指導する教科についての指導内容・方法の系統表を作成する。
- 児童生徒のICT活用力の育成について、中学校理科における実践研究が進み、教職員の間の指導についての理解が進むとともに、子どもの活用能力にも一定の高まりが見られた。
- 篠栗小中一貫校区については平成28年度の県重点課題研究、糟屋地区地教連指定研究の成果を基にして、体育・保健体育、外国語活動・外国語科等の教科の一貫カリキュラム化について協議を進めた。

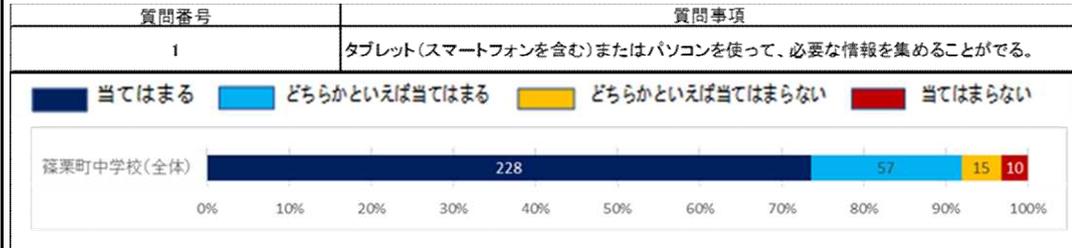
【成果指標 評価方法：篠栗町アンケート】

① 目標 社会的自立の基盤となる資質・能力を児童・生徒に身につけさせる。

①-1-1 ICTを活用して情報収集、表現活動を行うことができる子どもを増加させる。

【目標数値】平成29年1月調査実施→平成29年7月調査10%増、全体の70%以上

平成29年1月実施調査に基づくと、ICTを活用して情報収集、表現活動を行うことができると考えている生徒は、全体の約92%であり、目標数値を達成できている。研修による教師のICT活用から生徒のICT活用能力育成への授業づくりの転換が進み、パソコンやタブレットを活用した授業実践がすすんだこともあり、生徒の必要な情報を収集する力が高まってきていると考えられる。



篠栗町児童生徒アンケート(平成29年1月)

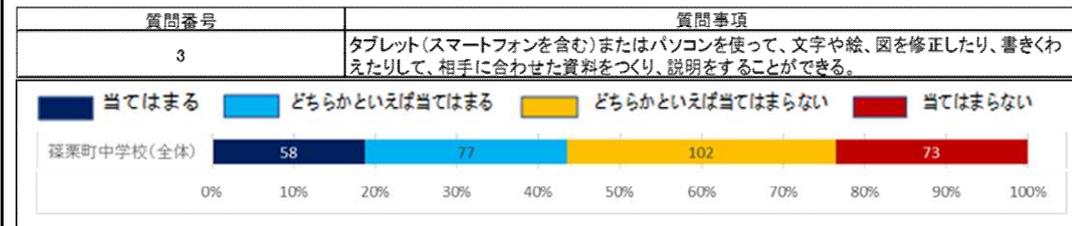
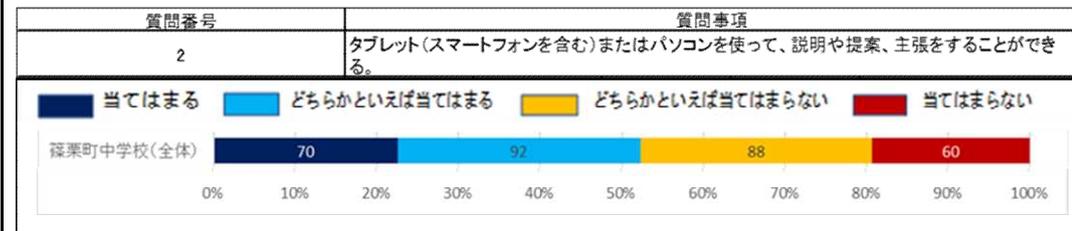
【成果指標 評価方法：篠栗町アンケート】

① 目標 社会的自立の基盤となる資質・能力を児童・生徒に身につけさせる。

①-1-2 ICTを活用して情報収集、情報の取捨選択、情報の加工・作成、対象を考えたプレゼンテーションを行うことができる生徒を増加させる。

【目標数値】平成29年1月調査実施→平成29年7月調査10%増、全体の70%以上

平成29年1月調査に基づくと、ICTを活用して情報収集、情報の取捨選択、情報の加工・作成、対象を考えたプレゼンテーションを行うことができると考えている生徒は全体の44%であり、ICTを活用して情報収集し、そのまま材料として説明する授業は行われているが、さらに情報内容の吟味、情報を加工して説明する授業の実施を拡大・充実させていく必要があると考えられる。



篠栗町児童生徒アンケート(平成29年1月)

【成果指標 評価方法：篠栗町アンケート】

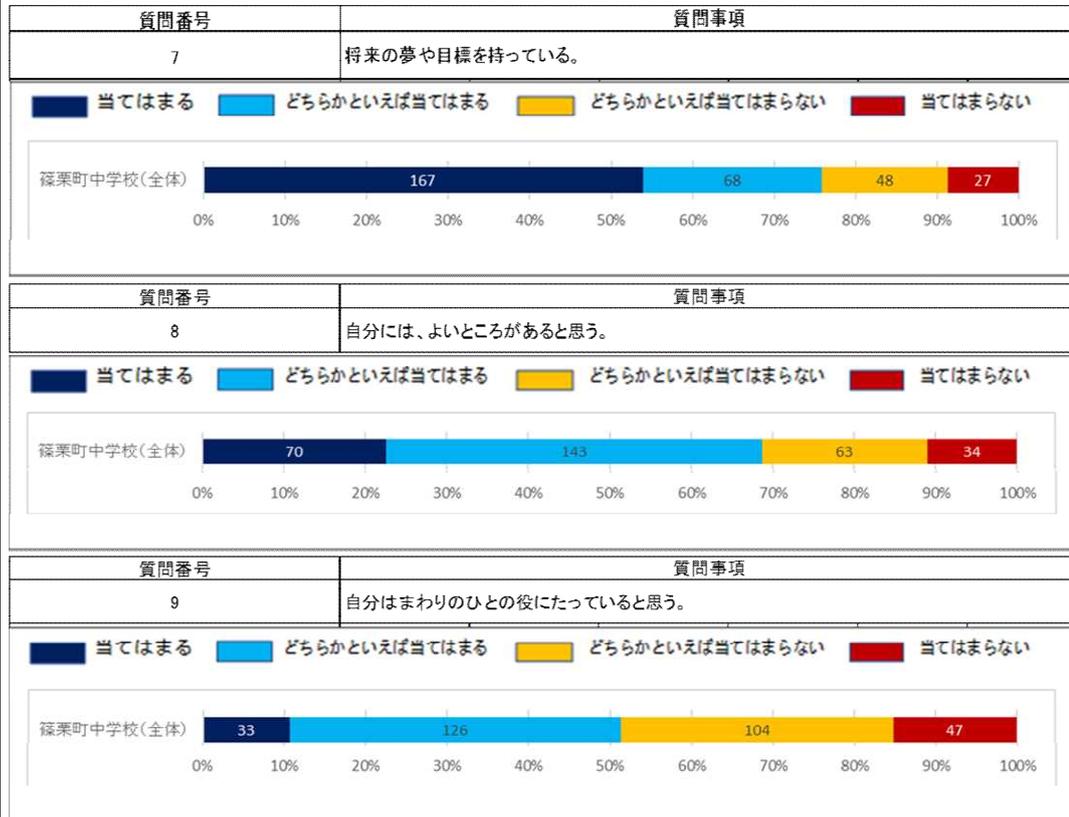
① 目標 社会的自立の基盤となる資質・能力を児童・生徒に身につけさせる。

① -2 「問題解決」「論理的・批判的思考力」「メタ認知力」を身につけた生徒を増加させる。

【目標数値】平成29年1月調査実施→平成29年7月調査10%増、全体の70%以上

平成29年1月調査及び、生徒の活動ふり返しシートの記述分析の結果、問題解決力が身につけていると考えている生徒が72%、論理的な説明や批判的思考を行えると考えている生徒が62%、自分の考えや行動を客観的に認識し、判断することができると考えている生徒が75%見られた。

生徒に十分な問題解決力・論理的・批判的思考力・メタ認知力を身に付けさせるため、知識伝達方の授業からアクティブラーニングへの授業改善をさらに進める必要があると考えられる。



篠栗町児童生徒アンケート(平成29年1月)

【取組2の成果】

- 「自己実現力」「人間関係形成力」「社会参画力」の3つの能力について、発達段階ごとの到達目標を明確にした「篠栗町志教育カリキュラム 社会的自立の基盤となる資質・能力の評価規準」を作成した。(資料5)
- この規準に基づき、「志教育カリキュラム全体計画」「志教育学年指導計画」を全小中学校で作成した。計画内容については、さらに系統性と効果を吟味し、3月

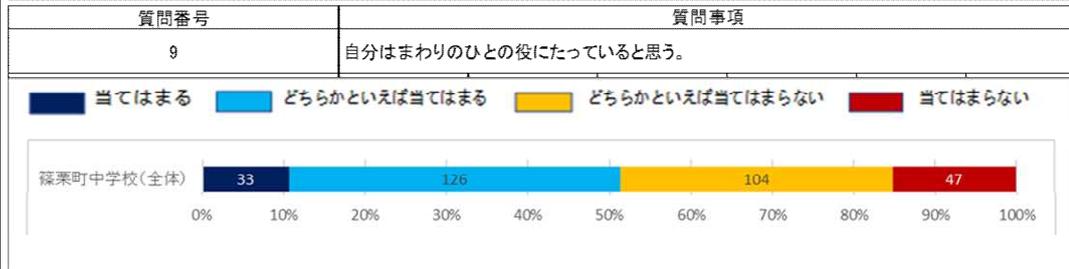
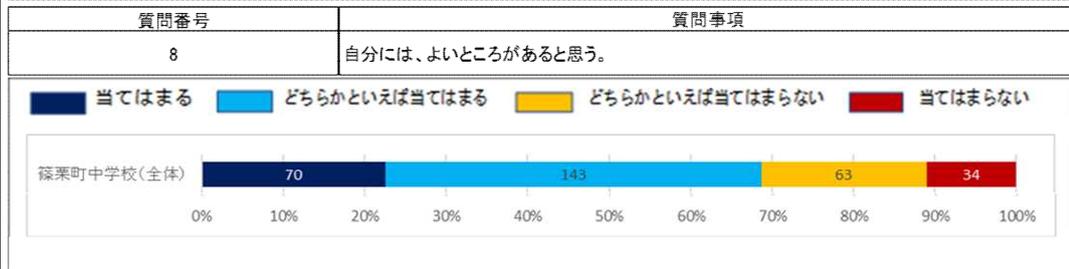
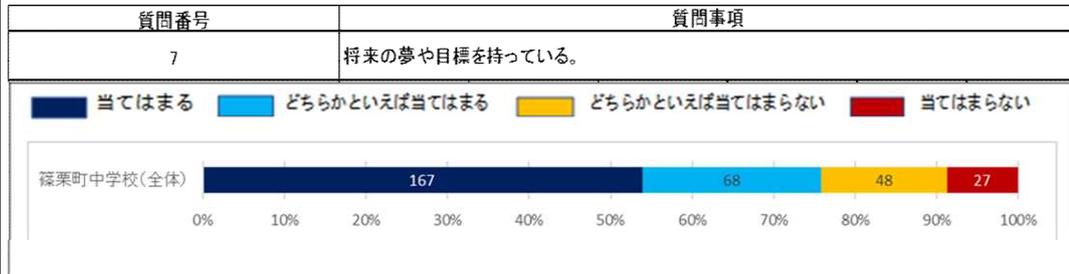
②目標 児童生徒の自尊感情を高め、主体的に目標を見定めて活動し、課題（困難）を克服することができる児童・生徒を増加させる。

②-1 モデル校の「将来目標」「自尊感情」の肯定的回答の指数を向上させる。

【目標数値】平成27年4月全国調査63%→平成29年7月調査80%以上

平成29年1月調査に基づくと、将来目標をもっている生徒が75%、自己肯定感がある生徒が69%、自己有用感がある生徒が51%であった。

いずれも目標数値を下回っており、生徒指導の三機能を生かした授業づくりや志教育をさらに充実させ、子どもの自尊感情を高めていく必要があると考えられる。



篠栗町児童生徒アンケート(平成29年1月)

②-2 H28年度末において、モデル校の不登校出現率を低下させる。

【目標数値】平成27年度3月1.6%→平成28年度3月調査1.5%以下

次年度比較調査実施

③目標 学校や地域社会の一員として自己の役割を自覚し責任を果たすとともに、より価値の高い生き方を実現することができる力を身につけさせる。

③-1 児童生徒の地域に対する「郷土愛」、社会貢献に対する意欲、活動に対する満足感・達成感についての肯定的回答指数を高める。

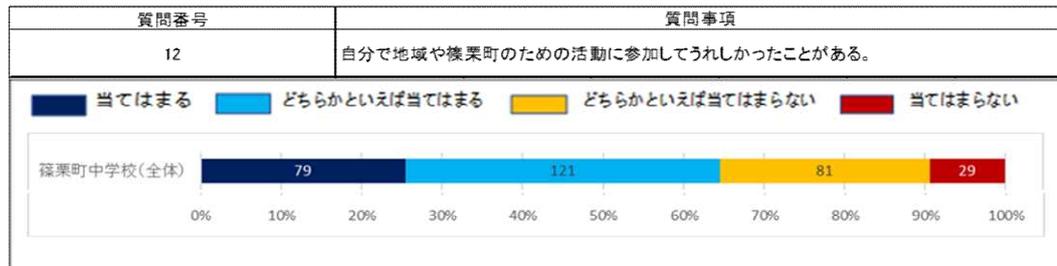
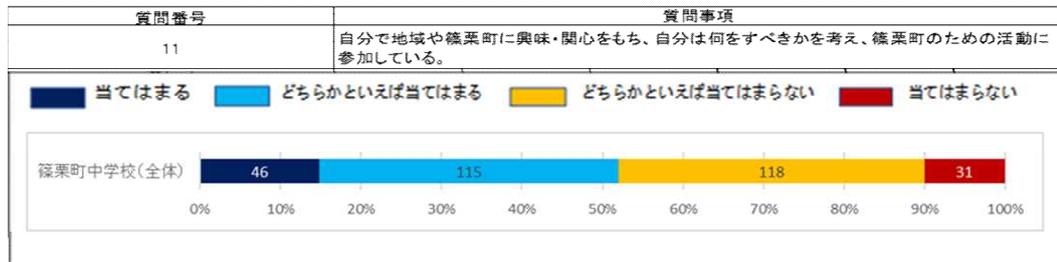
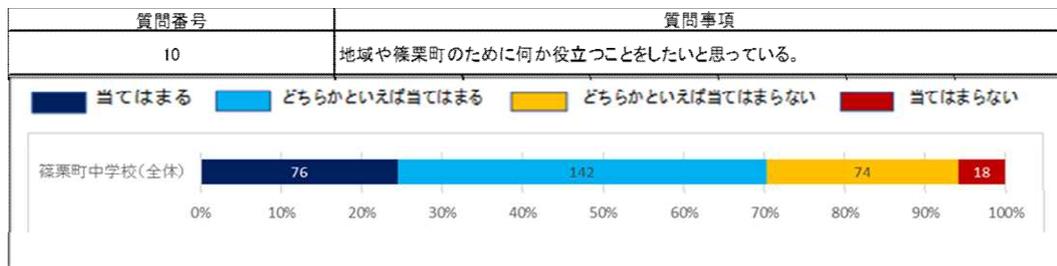
【目標数値】

「郷土愛」 平成27年4月全国調査33.2%→平成29年7月調査70%以上
 「社会貢献意欲」平成27年4月全国調査60.8%→平成29年7月調査70%以上
 「達成感」 平成27年4月全国調査79.0%→平成29年7月調査85%以上

平成29年度1月調査に基づくと、郷土愛をもち社会貢献に意欲を持っている生徒が70%、実際に郷土のために活動した経験がある生徒が51%、地域貢献に対する満足感・達成感を感じたことのある生徒が63%である。

質問12において学校の体験活動の満足感・達成感も含めた生徒がいたことにより、活動経験がある生徒の割合より、満足感・達成感を感じた生徒の割合が大きい数値となっている。

いずれも目標数値を超えるため、子どもの自己実現力、人間関係形成力、社会参画力子をさらに高め、主体的に地域貢献に取り組むことができるようにする必要があると考えられる。



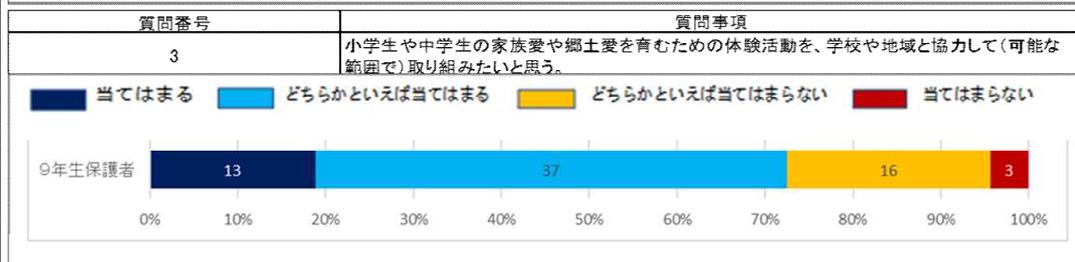
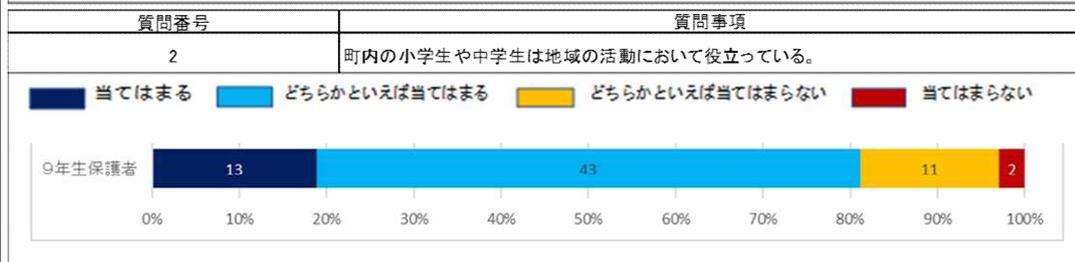
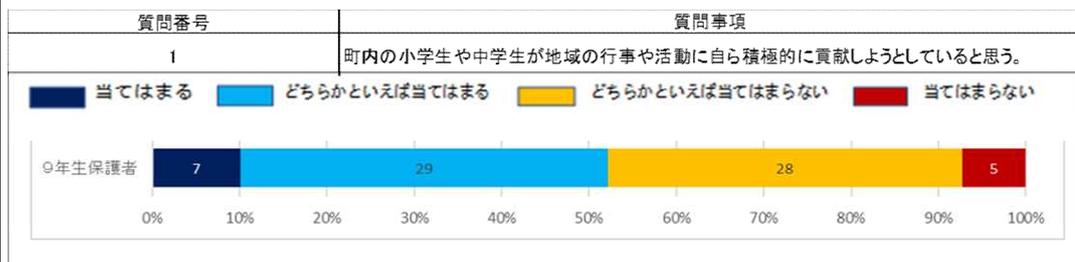
篠栗町児童生徒アンケート(平成29年1月)

③-2 保護者・地域の小学生・中学生の活動に対する有用感、肯定的評価、共育における協働についての肯定的回答指数を高める。
 【評価方法：篠栗町アンケート】平成29年1月調査実施→平成29年7月調査80%以上)

平成29年1月調査に基づくと、生徒が地域に積極的に貢献しようとしていると考える保護者が52%、生徒が地域に役立っていると考えている保護者が81%、学校、地域保護者が協働する取組に肯定的な保護者が72%であった。

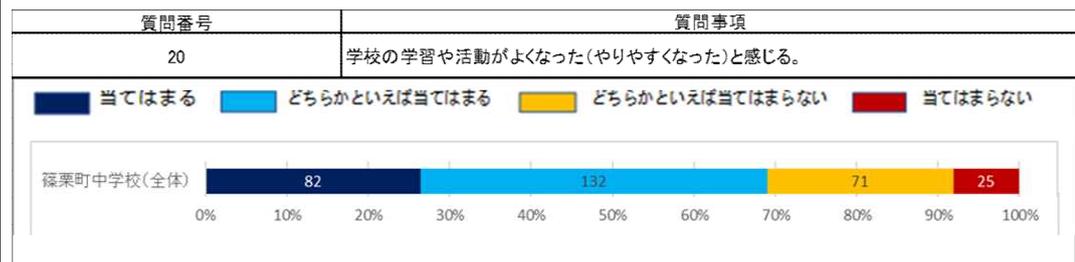
子どもの活動に対してその有用感が高いものの、子どもの主体性や意欲については不十分と考える保護者が多い。

また、子どもを育てる活動に対しては協力的な保護者が多く、指導の効果を高めるためにも、この地域の強みを生かした事業を推進する必要がある。



篠栗町保護者アンケート(平成29年1月)

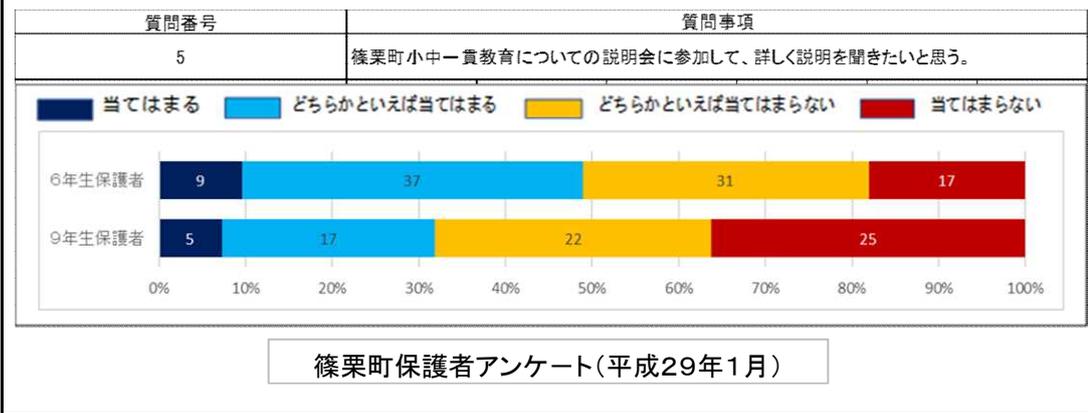
- 【取組3の成果】
- 北勢門小学校・篠栗北中学校(両校ともモデル校)において、生徒指導の三機能をいかした授業についての構想をまとめ、小中で3回の公開授業・合同研修会を実施した。
 - 合同研修により、教職員の授業の基盤についての理解が進み、両校における授業改善が進んだ。
 その結果、篠栗町アンケート調査において、学校の授業が改善されたことに対する児童生徒の肯定的回答が70%を超えた。



篠栗町児童生徒アンケート(平成29年1月)

【取組4の成果】

- 篠栗町小中一貫教育推進委員会（学校・学識経験者・福岡教育事務所・篠栗町教育委員会）を発足し、「篠栗町小中一貫教育推進事業計画」を策定して取組を開始した。（組織図は資料2参照）
- 小中一貫教育を地域、保護者と一体となって進める体制をつくるために、篠栗町小中一貫教育推進協議会（委員会＋PTA会長・校区づくり団体代表）を発足した。篠栗町アンケートを基に児童生徒及び保護者の意識を分析し、「篠栗町小中一貫教育基本方針」を策定するとともに、学校、地域、保護者の共通認識づくりを推進するため、今後の取組の方針と内容を具体化した。（資料3）



(4) 今後の取組予定

■ 1 平成29年度基本方針

- 北勢門小学校・篠栗北中学校においては、小中一貫教育を一部実施する。
- 勢門小学校・篠栗小学校・篠栗中学校においては、現行の県指定研究・地教連指定研究の研究成果の中から小中一貫教育の教科の中心カリキュラムを決定する。それぞれの研究を汎用化するとともに、「勢門小・篠栗小・萩尾分校で共通化して実践する内容」「小中で一貫化する内容」を決定し、一貫教育の構想をつくりあげる。
- 小中一貫教育推進協議会を軸とし、保護者・地域に対する啓発活動及び公聴会を実施する。
- 活動をつくる上では、一つひとつの活動の効果が最大限発揮されるようにする。

平成28年度 システムづくり		→		平成29年 指導・内容の実践研究	
-----------------------	--	----------	--	-------------------------	--

		勢門小学校	篠栗小学校	篠栗中学校	北勢門小学校	篠栗北中学校
第 I 期	H 2 8	県重点課題指定研究(体力) 小中一貫構想期間	地教連指定研究(外国語) 中一貫構想期間	地教連指定研究(教科指導) 中一貫構想期間	小中一貫準備期間 地教連指定研究(一貫)	小中一貫準備期間 地教連指定研究(一貫)
	H 2 9	県重点課題指定研究(体力) 小中一貫構想期間	地教連指定研究(外国語) 特支教育研究、一貫構想期間	健康教育・特別支援教育研究 地教連指定研究(教科指導) 小中一貫構想期間	小中一貫教育部分実施・研究発表(一貫) 篠栗町小中一貫教育推進協議会による審議・答申	
	H 3 0	小中一貫準備期間 (一部実施)	地教連指定研究(外国語) 小中一貫準備期間(一部実施)	地教連指定研究(教科指導) 小中一貫準備期間(一部実施)	小中一貫教育完全実施 ICT化推進 第Ⅱ期基本方針策定 「組織・内容・方法」重点の改善・充実	
第 II 期	H 3 1	小中一貫教育完全実施			小中一貫教育完全実施	
	H 3 2	篠栗町小中一貫教育推進協議会による審議・答申				
	H 3 3	第Ⅲ期基本方針策定 「環境・設備」重点の改善・充実				

■ 2 各組織の取組

(1) 教育委員会の取組

- 小中一貫教育推進協議会の実施・運営（5月・2月）
- 小中一貫教育推進委員会の実施・運営
- 小中一貫教育運営委員会の実施・運営
- 小中一貫教育評価検討委員会の実施・運営（教務担当主幹教諭・教務主任研に兼ねる）
- 小中一貫教育における部活動の在り方、特別活動等における連携の在り方の審議会
- 志教育カリキュラム編成会議（教務担当主幹教諭・教務主任研に兼ねる）
- 小中一貫教科カリキュラム小中合同編成会議（年2回）
- 小中一貫教育推進計画策定・小中一貫教育推進協議会規則の策定
- 小中一貫教育推進事業保護者説明会の実施・新聞・テレビ・広報ささぐり等による活動//広報
- 電子黒板・タブレット整備計画策定
- 小中一貫教育にかかわる人員配置についての検討
- 教育力向上実践交流会（小中一貫教育シンポジウム）の実施
- 文部科学省・福岡県との事務、福岡県小中一貫教育推進協議会への参加
- 事業アンケートの実施（11月）、分析・考察

(2) 全小中学校共通の取組

- 平成29年度各小中一貫校区における小中一貫教育推進計画の作成
- 「志教育」カリキュラムの実施
- 校務分掌における小中連携コーディネーター教員の配置
- 校区別小中一貫教育推進協議会の実施

(3) 勢門小学校・篠栗小学校・篠栗中学校一貫校区の取組

- 小中一貫教育全国サミット（10月 京都市）参加
- 小中合同研究会（全体会・教科部会）の年2回の実施
- 小中合同運営委員会の月1回の実施（小中一貫教育推進委員会の際に実施）

(4) 北勢門小学校・篠栗北中学校小中一貫校区の取組

- 国語・数学・社会・理科・英語・美術・体育・総合的な学習の時間・特別活動における//小中一貫系統表の編成及び実践の開始
- 外国語活動、図画工作、体育、音楽への中学校教師授業の学期1回の実施
- 中学校数学、道徳等における小学校教師の授業を学期に1回実施
- 学期に1回の小学生部活動ウィーク（3日以上）の実施
- 志教育カリキュラムにおける小中合同活動の実施
- 中学校体育会への小学生種目の導入
- 小学校運動会への中学生種目の導入
- 中期学年（5年生）からデザインの異なる名札を着装などの検討
- 小中合同研究会（全体会・教科部会）の学期に1回の実施
- 小中合同運営委員会の月1回の実施（小中一貫教育推進委員会の際に実施）
- 篠栗北中学校・北勢門小学校地教委連絡協議会指定研究発表（文部科学省指定中間報//告）